

第6章 令和4年度以降の課題

当面の間、下水道技術開発会議エネルギー分科会においては、以下の課題について、議論等をすべきと考えている。

下記の①、③、④については、令和4年度に国総研下水道研究部において調査・研究を進める課題であり、分科会委員からも助言や意見等をいただきたいというものである。②については、様々な視点から検討を加えるべき課題と捉えており、複数年に渡る長期の検討が必要と考えているものである。⑤や⑥については、社会経済情勢等を踏まえて、検討の俎上に載せていくべきものと考えている。

(1) 令和4年度から検討する事項

○2030年度の目標達成に向けた課題

①下水道に関連する他分野への貢献の評価手法や地方公共団体が温室効果ガス削減目標を設定することに資するベンチマーク手法に関する国総研の検討状況についての報告・意見聴取。(第5章の「2050年カーボンニュートラルの実現に貢献するための下水道技術の技術開発ロードマップ」(以下「ロードマップ」という。))中の技術開発項目1-1、4-1、4-2 関連)

○カーボンニュートラル実現への貢献に向けた課題

②将来的に、下水道・流域管理・社会システム全体を視野に入れて全体最適化のあり方の議論を進めていくことに備え、現状の取組(水質とエネルギー消費量のバランスを取りながら管理する「二軸管理」、季節別に下水処理場からの放流水質を変更する『季節別運転』、下水道に関係する有機物、窒素、リン等の『物質循環』、新技術等の関連情報)の把握、取組むべき範囲(スコープ)の明確化、地域特性や社会情勢の変化等に応じた様々なシナリオの検討、効果的な対応策の感度分析、工程の整理等。(ロードマップ中の技術開発項目2-8 関連)

③水処理過程で発生する N_2O の排出状況やメカニズム分析に関する国総研の検討状況についての報告・意見聴取。(ロードマップ中の技術開発項目3-1 関連)

○2030年度の目標達成及びカーボンニュートラル実現への貢献に向けた共通課題

④廃棄物分野との一体処理促進に資する効果的な連携ケースや資産効果に関する国総研の検討状況についての報告・意見聴取。(ロードマップ中の技術開発項目13-1 関連)

(2) 令和5年度以降に検討する予定の事項

⑤汚泥の肥料化やリン回収技術の導入促進に資する検討。(ロードマップ中の技術開発項目16-3、16-4 関連)

⑥ロードマップの進捗状況の把握等、フォローアップに関する事項